

平成30年5月11日  
 四国電力株式会社

## 伊方発電所3号機 充てんライン圧力計元弁付近からの 1次冷却材漏えいについて（続報）

定期検査中の伊方発電所3号機（加圧水型、定格電気出力89万キロワット）の原子炉補助建屋1階（管理区域内）において、5月9日2時10分、巡視点検中の運転員が充てんライン圧力計の元弁付近で1次冷却材の微量な漏えいを確認しました。そのため、当該弁を閉止し、4時40分、漏えいの停止を確認しました。

なお、漏えい量は、約130ミリリットル、含まれる放射エネルギーは約20ベクレルと推定しました。

燃料については、現在、定期検査中であり、原子炉容器から取り出し、使用済燃料ピットで保管しているため、冷却状態に影響はありません。

本事象による環境への放射能の影響はありません。

（5月9日お知らせ済み）

調査の結果、漏えい箇所は、当該弁のボンネットとボディの隙間であることを特定したため、ボンネットの増し締めを行い、漏えいが停止したことを確認しました。

その後、当該弁を分解点検しましたが、異常は確認されなかったことから、当該弁を復旧し、漏えいがないことを確認し、本日10時00分、通常状態へ復旧しました。

今後、引き続き、漏えいした原因を詳細調査します。

